

全 員 協 議 会 記 録

令 和 7 年 3 月 3 日 (月)
15 時 40 分 ～ 18 時 40 分
全 員 協 議 会 室

〔出席議員〕

笹田議長、川神副議長

肥後議員、村木議員、大谷議員、三浦議員、沖田議員、村武議員、川上議員、
柳楽議員、串崎議員、小川議員、土野議員、布施議員、岡本議員、芦谷議員、
永見議員、佐々木議員、田畑議員、西田議員、牛尾議員

〔執行部〕

久保田市長、砂川副市長、岡田教育長、佐々木産業経済部長、

久佐産業経済部参事、坂田商工労働課副参事

〔事務局〕 下間局長、松井次長、大下書記

議 題

1 執行部報告事項

(1) 浜田駅周辺エリア賑わい創出に向けた現状分析及び調査事業について

(産業経済部)

(2) その他

2 その他

(1) 自由討議について

(2) その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[15 時 40 分 開議]

○議長

ただいまから令和7年3月3日の全員協議会を始める。上野議員から欠席の連絡を受けている。議題に入る前に、このたびこのような状況になったことを私から説明させていただく。

一般質問の中で三浦議員から「この調査事業についての説明がない中で」という質問があり、その日に執行部から、早いうちに委員会を開きたいとの相談があった。委員会は28日に急きょ開かせてもらった。ただし、委員会だけだと所管の委員しか質疑ができないことを相談したところ、執行部から全員協議会を開きたいとの意向があったため、今日全員協議会を開いた次第である。

議会を円滑に進める議長としては、非常に残念なことである。昨年も予算決算委員会の中で二転三転した際に、我々議員は提案権をいろいろ言うつもりはないが、提案する以上は議員や市民に分かりやすい説明内容を提示し、しっかり議論できるようにしてほしいと執行部には申し上げてきたつもりである。そういったことができず、急きょ委員会や全員協議会になったことを議員にも市民にも大変申し訳なく思う次第である。

28日の委員会は傍聴やY o u T u b eなどで見られたかもしれないが、議案に絡んでくる内容なのでここでしっかり質疑していただき、議案の賛否等々に生かしていただけたらと思う。

○市長

このたび調査結果の報告が遅れたことを私からもお詫び申し上げたい。28日金曜日に委員会で報告させていただき、今日も急きょこの場を設けていただいた。遅れたことを改めてお詫び申し上げたい。申し訳なかった。

○議長

それでは議題に入る。

1 執行部報告事項

(1) 浜田駅周辺エリア賑わい創出に向けた現状分析及び調査事業について

○議長

資料(1)-1を参照されたい。執行部から説明をお願いします。

○産業経済部長

本日の資料については、浜田駅周辺エリアにおけるにぎわい創出に向けた現状分析及び調査事業報告書を抜粋し、図面や画像を大きくし要点をまとめた概要版と、事例集をもって説明する。

まず、この調査の目的と背景について。令和5年度において浜田駅前エリアの活性化に資するため検討委員会を立ち上げ、三桜酒造跡地の公共活用に関する提言書が取

りまとめられた。この提言書においては、様々な世代の市民が主体的に利用できる多目的・多用途な空間として整備を行い、浜田市外からも多くの人を訪れ、交流やにぎわいが創出される場の整備が求められたところである。この提言書でいう具体的なイメージは、カフェや広場でゆっくり過ごすことができる場、週末や休日にマルシェ・朝市・フリーマーケット・各種イベント等が開催できる場、浜田市の伝統芸能である石見神楽など、市民や観光客が浜田らしさを身近に感じることができる場が挙げられていた。したがって、浜田駅周辺におけるこういった交流やにぎわいが創出される場、それらの現状と方向性、可能性に係る考え方を、データとノウハウを持つ業者に委託して整理をし、加えて他地域の参考事例や浜田駅周辺における具体化について分析・検証・整理してもらう目的で事業を実施したところである。

それでは、概要版を参照されたい。

1ページから3ページは、浜田市における交流文化機能の検証であり、子育て世代や大学生へのヒアリングや各種データ、市内あちこちで開催されたマルシェなどのにぎわい創出の様子などを現地調査し、傾向を整理していただいた。

次に、4ページから6ページでは、駅周辺のにぎわい機能についてその分布図も含めてレイアウト化しており、4ページが商業施設等、5ページが公園・緑地等の公共施設、6ページに駐車場等の状況が整理されている。

次に7ページを参照されたい。こういった分析の結果、浜田市駅前周辺のにぎわい創出に向けた課題として抽出されたのが「目的として訪れる施設や場所が少ない」「気軽に利用できる駐車場がない」「まちの連続性や連携性が乏しい」という3点があり、これらの解決策として機能充実を図るため、種地（拠点エリア）の活用を考えていく必要があると指摘されている。

続いて8ページを参照されたい。その課題を受け、浜田前周辺のまちづくりの方向性として「日常的に集いにぎわうまち」「浜田らしさが感じられるまち」「市民や来訪者などが夜でも楽しめるまち」をキーワードに掲げ、9ページから10ページに当たっては拠点エリアの現状・特性などを分析している。

11ページにおいて、機能充実のイメージが整理をされている。例えば「日常的に集いにぎわうまち」の方向性については、既存施設として商店街やスーパーマーケット、東公園や図書館などがあり、望まれている施設とすれば芝生公園や交流ホール、カフェや子どもの遊び場や、浜田の歴史文化を体験学習できる施設。「浜田らしさが感じられる場」については、既存施設として駅前のからくり時計やゲートサイン、商店街のサインや石造。望まれている施設とすれば、浜田の歴史文化を体験学習できる施設や物産館的な施設。「市民や来訪者などが夜でも楽しめるまち」については、既存施設とすれば、飲食店や夜神楽と、望まれている施設とすれば、夜カフェやクリスマス・ハロウィンなどのイベントが挙げられている。

これらの機能充実や拠点エリアへの導入については12ページに整理したとおりで、セントラルパークや、多目的ホール、神楽保存伝承施設、歴史郷土資料館、浜田市PR館、駐車場などが挙げられている。

最後に13ページ。これらの導入が考えられる施設を拠点エリアで具体的に配置する三つの案を一覧にして、課題も含めて効果を整理し例示していただいた。

次に事例集である。今回の委託業務の中で、他地域の参考事例についても調査例示をお願いしたところ、駅周辺のにぎわい創出に関する事例として、1ページの鳥取県、境港駅周辺や、2ページの由良駅周辺。続いて神楽関連施設に関する事例としては、5ページの大分県豊後大野市の神楽会館や、6ページの岡山県井原市の吉備高原神楽民俗資料館。また、9ページには、子育て世代へのヒアリングの際、意向として推奨されていた東京都豊島区のイケ・サンパークといった事例が挙げられている。

以上がこのたびのにぎわい創出に向けた現状分析及び調査事業の概要である。令和5年度の三桜酒造跡地活用検討事業では、やはり週1回以上駅周辺を利用される方が多くおられて集いやすい場であるということだったので、地域における土地利用の状況など基礎的な部分の深掘りを行ったところである。

以上今回の事業概要の説明をさせていただいた。よろしく願います。

○議長

ただいまの報告について議員から質疑はあるか。

○布施議員

駅前周辺エリア、三桜酒造跡地活用については何人もの議員が一般質問で取り上げ、その都度市長が答えておられた。このたび報告された資料だが「浜田駅周辺エリアのにぎわい創出に向けた現状分析及び調査事項」の「交流文化機能の検証」の中の、「くつろぎの空間の検証」について。子育て世代が良く行くところといった報告があるが、それはその世代が良く行くところであって、くつろぎを求めて行くところではないと私は思う。くつろぎとは個人的なリラックスであって、リラックスできる場が駅前にあるのかという調査なら良いが、子育て世代が良く行くところとなると、ゆめタウンもお魚市場も該当してくる。また、くつろぎ空間の検証の中に、なぜ県大生の駅周辺需要が入ってくるのか。まずこの検証自体、整合性がないように思う。これらを踏まえてA、B、Cの3案が提示されているのではないか。問い掛けの項目が違うのではないか。どういう依頼をされたのか。

○産業経済部長

まずこの検証の前に、令和5年度で三桜酒造跡地検討委員会が開かれた。コンサルは全体的にいろいろな調査をしておられる。市民アンケートなど団体ヒアリングも行った上で、さらに今回くつろぎ空間の検証を行った。しかし先ほど言われたように、くつろぎの定義は、例えば子育て世代が子育て支援センターやゆめタウンに行くのも一種のくつろぎだと私は思うが、ただ、今までやってきた調査に加え、今回コンサルが新たに深掘りしたいとのことで、この二つについてヒアリング調査をした。

○布施議員

駅前にぎわい創出は全世代の問題なのに、子育て世代と県大生に特定している。検証するなら「どういうものがあれば駅前に行くか」などの質問を踏まえなければ。

昨日の「扉をあけて」の放送を見た。我々は段階を知っているから良く分かるが、

一般市民は「1年前にこういう検討委員会をやったからこうなのだ」と言われても、なかなか思い出す人もいない。

昨日も町内の集いでまず言われたのは、市長が示される気持ちは分かるが、自分たちの気持ちはにぎわい創出の中に反映されてないのではないかということである。私も神楽伝承館は必要だと思っている。それが三桜酒造跡地なのかどうかまでは最終判断できないが、全体を通じてのにぎわい創出をやりたいという気持ちも分かる。しかし市民や議員が納得できる計画を示してもらわないと難しい。知見と専門性を持ったコンサルにお願いしたというが、市民の声が反映されてない分析だと私は思う。

○商工労働課副参事

今回の調査を依頼したコンサルとは、令和5年度の調査をお願いしたところと随意契約した。そのときに得た情報やアンケートのノウハウを踏まえて進めていると我々は理解している。

○布施議員

過去のデータを持っているところが分析したからこそ、こういったものは分かるように示すのがコンサルの仕事ではないか。市長が都度説明するのではなく、資料に文字で示してあれば、こういった全員協議会の場でも少しは経過が理解できるのでは。専門性や知見があるからと丸投げしているから市民感覚との乖離が出てくるのではないのか。

○商工労働課副参事

書きようが足りなかったというご指摘については大変申し訳なく思うが、先ほど申し上げたように前年度の事業を受けて進めていった調査事業であり、これから考えていくに当たって内容の整理をお願いしたつもりだった。したがって、上がってきたものはその流れであるという前提だったため、資料に載せる情報が少し不足していたのかもしれない。

○布施議員

最後にある「浜田駅周辺まちづくり構想の検討」についても担当委員会の中で結構言われただろう。文化交流機能と併せると、収益施設として見るのか、交流文化施設として見るのか。収益が全然違う。市長は、にぎわい創出については民間の力を借りて構築していきたいと答弁された。三桜酒造跡地酒蔵跡地を核としてその部分をやっていきたい思いをお持ちだと思う。民間がにぎわい創出をすとなると、顧客としてお金を使っていたくことになる。

核となる課題として「石見神楽伝承施設や浜田市郷土資料館などの体験学習施設は、それほど多くの集客は望めない可能性もある」と書かれている。さらに「にぎわい創出にはつながりにくい」とも書かれている。集客という書き方に違和感がある。なぜA案がこのような書き方になっているのか。A案は明らかに客層を分けているように感じる。

○商工労働課副参事

先ほど部長が説明したように、こういった流れで整理していく中で、拠点エリア

についてどういった整理ができるかのイメージが、11・12ページに出ている。例えば種地として使えるところにそれぞれはめていくと、こういったことが考えられるが、ただそれにはいくつかの課題もあるという提案である。これが望ましいからこれをやろうといった書き方ではない。分析・検討を依頼したのであり、それを見て最終判断をするのは市である。考え方の整理をお願いして、出てきたのがこの内容である。

先ほどご指摘があった体験学習施設の件だが、もちろん単体での集客はなかなか難しいとコンサルも言っていた。それを集約して、なおかつ一体的な整備・運用を考がえてあそこに整備するとうまくいく可能性が高いのではないかと考えている。

また、駐車場の課題ももちろん上がっている。ここらの整備を次年度以降に考えていきたいということで、今回提案させていただいている部分もある。

○布施議員

苦しい答弁だと思う。それならB、C案はにぎわい創出できるのか。そう書いてないが。セントラルパークとしての機能にした場合、A案はそういうことが書いておらず、神楽伝承多目的ホールなどと書いてあり、課題も添えられている。B、C案に課題がないのは、にぎわい創出できるからなのか。共通の課題項目を出して、こっちの案はクリアできるがあっちの案はできないというなら分かるが、課題対象が全然違うのもおかしい。

もう一つ。A案は多目的ホールという名前になっている。市長の施政方針説明の際には「仮称神楽ホール」という固有名詞を挙げられた。多目的ホールといえば、田植え囃子、盆踊り、コーラスなどにも使える。しかし市長は神楽ホールと言われる。石央文化ホールとのすみ分け、夜神楽とのすみ分けなどもある。多目的ホールが、なぜ「仮称神楽ホール」に変わったのか。

○商工労働課副参事

B、C案の課題に上がってないことについて。重複しているものもあるし、出たものを全部は書いてないところもある。整理上の単純な問題である。

○布施議員

駅前のにぎわい創出をしたいのだろう。それが一番大事である。三桜酒造跡地のにぎわい創出したいのであれば、B・C案を詰めたらできるというなら分かる。A案に比べてできないというならまだ分かる。それも書かずに、駐車場がないなど違うことが書いてある。それは課題として上がったとしてもA・B・C案を比較するものではない。まずそこがおかしいと言っている。

○商工労働課副参事

おっしゃるとおりA、B、C案を比較するというより、Aの場合、Bの場合、Cの場合という書き方をしているので、今後の検討においてしっかり検討の材料にすべきものとして整理している。

○市長

施政方針で仮称神楽ホールと発言したとのご指摘があった。1年前の施政方針では多目的ホールという言葉を使っていた。それを受けてコンサルの資料には多目的ホー

ルと書かれているのだろう。先般の施政方針で仮称神楽ホールと言ったのは、昨年1年間、神楽の保存伝承検討会が開かれ、私もそこに参加したり報告書を見たりする中で、神楽に軸足を置いた施設のニーズが高いことから、仮称神楽ホール、ただし多目的で使えるという意味だった。しかし毎日神楽だけというわけにいかないだろうし、ほかの用途でも当然使えるように、神楽ホールと言いつつも実際には多目的に使えることにより利便性を高めたいと考えている。

今回の資料で多目的ホールと書かれているのは、私が今年の施政方針を述べる前に作られた資料だからかと思われる。

○布施議員

検討委員会には私もほとんど傍聴に行った。そこで言われたのは提言書にもあったように、拠点としては将来的に考えるべきであるとのことである。石見神楽振興議員連盟（以下、神楽議連）が様々な意見交換をする中では、「あったら良いが、まずは神楽伝承・保存について第一に考える。その次にホールももしかしたら必要になってくるだろう」と言われた。三宮神社や石中央文化ホール、各地区での奉納神楽がある。観光客からは、普段に行っても神楽は見られないとの声を聞く。神楽社中も平日働いている方が非常に多い。予定されていればその日に対応はできるだろうが、普段来ても見ることはできない。やり方はいろいろあると思う。映像で見せる方法もあるだろう。そういったものは将来的に必要だが、それを踏まえた整備をしていきたいというのであれば私は理解する。ただ、施政方針で仮称神楽ホールと言われたとなると、神楽が前面に出て神楽のための建設ありきではないかと市民は理解してしまう。市長の気持ちは理解できるが、市民はまだ腹入れできてないと。1年前に凍結され、今回たたき台を示された。しかし市民の調査ができているのか。ただ良いことだけ書いてあるように感じられる。

○副市長

今回の資料は、浜田市がこうしてほしいと伝えて作ってもらったものではない。コンサルが令和5年度の資料を基に、コンサルの考えで調査・報告したものである。これを踏まえて今回市長が施政方針を述べた。これからたたき台を作って議論したい。今回の資料は現状調査であり、今後やりたいのは市の意向を入れたものを作ることである。今回の資料は、専門家が浜田のいろいろな現状を調査して、駅周辺ならこうだというものを作ってもらったものである。たたき台をこれから作ってまた議論したい。

○布施議員

たたき台としてコンサルの意見を聞いたと言われるが、この検証の仕方や報告が偏ってないか。にぎわい創出するためにイベントなどで来てもらうのは市民である。その分析ができてない。A、B、C案の整合性も全然ない。私は推進派ではあるが、そういったところをきちんと示さないと市民に理解されないのでは。市長がテレビで一生懸命言われても、市民は過程を知らない。議論も知らない。まだまだ熱意はそこまで伝わってない。

○市長

まだまだ市民にお伝えできてないことは反省したい。先ほど副市長が申しあげたが、これはコンサルの視点で調査してくれた報告だと思っている。これも踏まえて、これまでの議論も踏まえて。三宮神社の老朽化も問題になっているが、改修費を行政が出すわけにもいかない。こういったことも踏まえながら、施政方針の中に仮称神楽ホールを出した。コンサルのこの結果だけでなく、もろもろを踏まえて提案させてもらった。具体的には令和7年度予算に提案したが、本当に三桜酒造跡地で郷土資料館やホールや広場の絵が描けるか、また周辺にどう波及するのか、今度はその視点から専門家の意見をいただきたい。そのための予算を計上している。

○川上議員

先ほどから市長は、この調査はコンサルが勝手に作ったもので私は見てないと言われている。三桜酒造跡地に建てるのは私の思いだと言われている。分析シートの最後のページの一番下に、やってもどうにもならないから何か考えてという良心が見え隠れしている。しかし市長はこれを見ず、もう決めたと言われるのはいかがなものかと思う。

○市長

私は見てないとは申しあげてない。この調査を依頼し、時々中間報告を受けていた。最初に手元に来たのは1月末だった。その頃はまだ骨子で細かい文面はできてなかったが、それらを踏まえながら検討委員会や要望などを踏まえて施政方針を申しあげた。

○川上議員

これまでの言葉を聞いていると、この報告書は業者がやったものであり行政側からコントロールはしてないとずっと言われている。しかしこの会社はもうすでに3回も同じことをやっているのだから、市長の思いを酌んでここに入れられた。つまりコントロールしたのと同じではないか。コントロールされた報告書を基にあれこれ言われても、私は納得できない。

○副市長

確かにこのコンサルは令和5年度の事業を受託し、随意契約していた。ただ、調査内容をこのようにまとめてほしいと市から申してはいないという意味でコントロールはしてない。これまでの経過は当然踏まえて作られたものだとは思っているが、報告書の文言を直させるようなこともしていないし、コンサルが自分らの考え方でまとめられた。いろいろなアンケート等も踏まえ、ある程度浜田のことは承知の上で作られたものと思っている。

○川上議員

説明シートの一番下には何と書いてあるかというところ「浜田駅周辺のまちづくり構想に資する、また、地域での事例分析」とある。また、「浜田駅周辺のまちづくり構想の検討」とも書いてある。議会としては、地域での事例分析しか聞いてない。したがって、どこかでコントロールしていると思わざるを得なかった。

○牛尾議員 41 : 04

私と佐々木議員は先日の産業建設委員会を都合で欠席したが、所管委員会の委員は発言を控え、それ以外の方に意見を言ってもらい、その後で所管委員会委員に意見があれば発言しなければいけない。議長はそのように仕切るようお願いする。

○議長

私は誰が発言しても良いと思っている。もちろん委員会でやるのは正しいやり方かもしれないが、その後に気付いた点があれば、もちろん質疑しても良いと考えている。その辺は理解されたい。

○肥後議員

概要版13ページの浜田駅周辺まちづくり構想の検討について。先ほどから質疑があるようにA、B、C案の中で、浜田駅周辺のまちづくりを構想するに当たり、浜田駅の1日当たりの乗降客数がどこにもない。なぜ浜田駅周辺のまちづくり構想を立ててにぎわいを創出しないといけないのか、この資料を何度読んでも理由が全く把握できない。説明をお願いします。

○商工労働課副参事

確かに駅の乗降客数は載ってない。申し訳ない。そもそもこの調査の説明については、6月の説明シートのときに、令和5年度において駅前エリアや三桜酒造跡地の調査をした。その中で、駅前エリアについて市民が一番集い多目的・多用途に使うところなので、その部分を少し検討させていただきたいということでこの調査を始めた。したがって駅周辺800mエリア内で市内のにぎわいの場を検証し、それが駅前であるとしたらどういう形になるだろうかの調査分析をお願いした。そういういきさつが概要版に全然上がってなかった。本体の報告書1ページ目には、そういう意図でやったと記載してある。

○肥後議員

7ページも同じく、浜田駅周辺のまちづくり構想の検討というタイトルが付いている。にぎわい創出に向けた課題の中で気軽に利用できる駐車場が少ないとのことだが、これは無料駐車場に関する市民アンケートに書かれた回答だった。市民も観光客も自家用車のアクセスが基本になっている中で、なぜ浜田駅周辺でまちづくり構想をしないといけないのか。少し違うのではないか。

○商工労働課副参事

令和5年度調査の際に、浜田市で一番人が出入りするのが浜田駅だとの結果が出ている。商店街も含めて駅周辺の活性化を考えていくときに、ここにはどういったものが考えられるだろうか、現状を調べるところからスタートしている。ただ、そこへ集うのは徒歩の方も自転車の方も車の方もおられる。その中で車利用者が多いため、自家用車のアクセスが基本としている。

○肥後議員

令和5年度の主な観光施設及びイベント利用者数が図で示されているが、上位三つが石見海浜公園、道の駅ゆうひパーク浜田、はまだお魚市場。17万人から50万人超までおられるが、自家用車駐車場のことや観光客が自家用車もしくはレンタカーで来ら

れた際には、にぎわい創出の観点で言えばこの三つ、もしくはそれに近いところのほうがむしろ整合性が取れるのではないかと思うのだが、どのようにお考えか。

端的に申すと、駐車場の問題や周遊、観光客や市民の利便性を考えると、石見海浜公園、道の駅ゆうひパーク浜田、はまだお魚市場周辺のほうが整合性を取れると思うが、どのようにお考えか。

○副市長

確かに観光施設の入込であればそれが上位3か所である。しかし市民の利便性を考えると、令和5年度のアンケートでも市民は駅周辺に最も多く集まると結果が出ている。観光客もその上位の施設だけでなく当然市内を周遊していただきたい。観光客も市民も両方の利便性を考えるとやはり駅周辺が良い。特に神楽なら銀天街がどんちっちタウンと銘打っている素地もあるので、そういうところを中心にやっていく。ホテルに泊まれる方も駅周辺を利用し車で来られる。基本的に公共交通と自家用車の両方を考えたときにはやはり駅周辺となる。すでにある観光施設にほかの付帯施設ができて、そこに来ていただくという考え方もあるが、今回は駅周辺が最善だと考えている。

○三浦議員

事例集を拝見した。境港市などの事例があるが、概要書9ページに、鬼太郎やコナンや出雲大社といった強力なコンテンツがない状況で考えるなら、観光客ファーストより市民ファーストな施設であるべきと書かれている。前提としてこれも参考にされるといった回答だったし、最終的には執行部がいろいろな情報をまとめて総合的に判断されるものと思うが、こういった調査結果や提言書は重く受け止めるべきであるし、そこに書かれていることではない判断をするなら、その理由を述べるべきだと思う。

この調査も専門のコンサルに対価を払って依頼し作ったものである。今回の予算にも計上されている全体計画は、たたき台を作るのに専門的知識が要るからこれだけの費用を計上しているのだと説明があった。それならば、専門家が調査したこの結果をどのように判断するのか。それと違う方向性が示されていたら、この調査は何だったのかとならないか。説明をお願いします。

○商工労働課副参事

6月の補正予算でこの事業をさせていただく。我々の中でこれから進めていくものの整理をする上で、深掘りし考えを整理するためをお願いした。その調査は少しずつ積み重ねていって結果が示され、それについては課題もこれだけある。課題は当然克服していかなければならないので、そういうものも含めてたたき台を作るのが来年度事業だと考えている。

○三浦議員

その出されたたたき台の方向性と、この調査結果の間にギャップがあると指摘している。ここに書いてあることを重んじながら総合的に判断されるのは執行部の考えなので、調査結果に出ていることや、市民の意見を全て反映するのは難しいということとは理解している。ただ、専門的な知見を有する計画をこれから立てるに当たり、同

じようなコンサルにお願いして出された調査結果を軽んじるのかと指摘している。重んじるなら、なぜここに書かれていることと、示された方向性の間に大きなギャップが生じているのかと指摘している。

具体的に聞こうか。ここに書いてある「観光客ファーストより市民ファーストな施設が望ましい」と書かれていることについて、全く逆の提案がされていることに対して、なぜこれが逆になるのか説明をお願いします。

○市長

浜田市にはコナンや鬼太郎や出雲大社のような強力な目的施設がないとコンサルは指摘した。その中で、むしろ市民が集い楽しんでいる姿を発信すると書いてある部分を指摘されているのだろうと思う。確かにコンサルの目から見たらそうかもしれないが、神楽は今後まだ魅力発信ができるものだと思っている。コンサルは神楽については残念ながらご理解いただいていないのかもしれない。これまで議員や神楽団体の声も聞いてきて、ほかの地域にない石見神楽が重要コンテンツでもあると考えている。それだけでなく、市民が集える場所という観点から、交流広場やホールで集えるように考えていくべきだと思う。

確かにコンサルの報告書に文言はなかったが、これを踏まえながらも市長提案とすれば今のような観点である。神楽はまだまだ人にアピールできる。一方では市民や観光客に楽しんでもらえる、二つの要素を今回の提案の中に盛り込ませていただいた。

○三浦議員

市長のお考えは分かった。私も神楽はほかの地域にはない魅力的なコンテンツだと思うし、三宮神社や神楽大会に県外から多くの方が来られている状況を見れば、石見神楽のエンターテインメント的要素などの魅力があると思う。

阿波踊り会館やねぶた会館などの事例を個人的に調べた。各館の年間来館者数、のべ床面積、敷地面積、駐車場台数、こういった機能があるか、これは検索するだけでも全部公開情報として出ている。であれば、たたき台を示されるときに、期待できる来館者数や経済効果、駐車可能台数といったことは、ある程度出てくるのではないか。それがたたき台だと思う。もとになる部分がなぜこの方向性になったのかが飛び飛びになっていて理解できないので、なかなか納得できない。一番説明を聞いている議会が分からないのに、市民に説明しても届かない。それを指摘している。だから丁寧にやっていただきたい。

もう一つ。概要書12ページに「整備に当たっては需要確認と検証をしてからが望ましい」とある。これも専門家からの指摘で、整備を一気に進める前に実証実験をしたほうが良いのではないかと報告していることについては、どのように受け取って方向性を示されたのか。

○市長

阿波踊り会館やねぶた会館と比較しながら、こういった集客が見込めるかは残念ながらこの報告には入っていない。今提案させてもらっている令和7年度予算が認められたら、委託事業の中にぜひそれを入れたいと思う。

12ページの社会実験について。先般の質問には、やや否定的な、難しさを前面に出した答弁をした。その後いろいろ考え、簡単ではないと思うがやってみようと思った。三桜酒造跡地の整地が終わったら、人が集えるのか、キッチンカーも入ったらどうなるのか。できれば令和7年度、どこかのタイミングでやってみようと思いに検討着手した。やる方向で何とか考えたい。

○牛尾議員

9ページと12ページが肝だと思う。その内容が全然内包されていないのが大きなギャップなのではないか。確かに強力な目的施設がない。物販店はほぼなく、ほとんど飲食店である。飲食店に集められるのは空腹な人だけだろう。したがって12ページに老婆心ながら書いてあるように、強力な目的施設がないところでやるなら、社会実験などによる需要確認が要るのではないか。これを優先して、その結果が出てからならどのような絵を描かれても良いと思う。今回それが欠けているので、一足飛び過ぎるのではと何人もから指摘された。状況が落ちている中でこういうものを仕掛けるなら、よほど入念にやらないと大変なことになるだろうと、コンサルはきちんと書いている。370万円も掛けてコンサルから結果が出ているのだから、それにある程度のことって、実証実験も含めて行って、その後に絵を描くというなら理解もするが、今の流れを見ると思いだけが先行して、コンサルの答申もほとんど無視されているように見えて非常に残念である。

○市長

社会実験は難しいといった趣旨の答弁をしたが、その後、難しさはあるもののやはり必要と考えて、方法などについて議論を始めたところである。それから、社会実験をやってから絵を描くと言われたが、私は並行しやるべきだと思っている。三桜酒造跡地に三つの機能を整備する方向で考えたいと申し上げたが、本当にあの面積の中に三つの機能が全部織り込めるかどうかは、素人なので確信がない。もし織り込めるようになったら、どれぐらいの費用が要るのか。これは社会実験とは別に必要なことだろうと思う。したがって、社会実験と並行してやるべきだと考えている。

○牛尾議員

多くの方の考えでは、あそこに三つの機能を入れなければいけないとは決まっていないと思う。郷土資料館は野原でも良いと思っている。そうすれば4千平米をもっと有効的に使える。三つの機能を入れることにこだわっていると、考え方そのものが窮屈になるのでは。肩肘張らずに、どうすれば結果が導けるか、考えを軌道修正していただきたい。

○市長

おっしゃることも理解できるが、まずは施政方針で申し上げた三つの機能があの場所に本当にはまるかどうか、専門家の意見を聞きたい。その上で無理だとなった場合は、代替案を出すのもありだろう。そういった議論をするのは、おそらく1年後くらいだと思う。まずは三つの機能が本当にあの場所でやれるのか。これは決して結論ではない。それが可能かどうか、まずたたき台を作りたい。

○岡本議員

市長は、市民に内容を伝えるためにこの予算が要ると言われたのだと受け止めた。しかし、議会側は、予算が承認された時点で議員や市民の意見が十分に反映されないまま事業が進んでしまうのではないかという不安がある。また、一部の議員からは、市長の意気込みが感じられないとの指摘もある。そこで重要なのは、予算が通過した後も引き続き市民の意見を聞き、反映できる仕組みがあるかどうかである。この点についての見解を求めたい。

○市長

一般質問の答弁でも述べたとおり、新年度予算において三桜酒造跡地活用と、その結果駅前周辺がどうなるのか、できれば周辺部への影響も含め、まずはたたき台のプランを作成する予定である。それができて初めて、議員や市民への説明というプロセスに入るべきだと思っている。ただ、具体的な説明のタイミングは来年の今頃になる見込みである。コンサルの調査結果を踏まえると、早くても12月頃になる可能性が高い。その後、議員や市民の疑問を受けて議論を進めていくことになるだろう。

○岡本議員

市長の意向は分かる。しかし、今回も前回も同様に、コンサルが提案する内容が新年度予算と絡めて突然示されたため、不安要素になっていると感じている。もし検討内容や進捗について中間報告があれば議会の不安も軽減されるはずだが、現状では計画ありきで進められているように見える。そのため、反対する人の理解をどう得るかが課題となっている。この点についてどのようにお考えか。

○市長

予算については、今後の予算決算委員会で議論される予定であり、外部コンサルの公募も進められる。計画の完成は来年の年明け頃を見込んでいるが、新年度の半ばには社会実験などの議論を進めることも考えたい。中間的な議論のプロセスについても検討していく。

○佐々木議員

一般質問を通じて、一部理解できた点もあるが新たな疑問も多く生じた。

私は、そもそもこの調査結果がどうなったのかを確認するために一般質問を通告した。昨年6月の予算提案時には、今回の調査結果が今後の三桜酒造跡地活用の重要な根拠となるとの答弁があったため、いろいろな期待をしていた。しかし、今回の答申や検討結果は、市政方針として十分に理解できる内容ではないと感じている。

そこで、いくつか確認したい。例えば神楽団体から、三つの機能の中に観光的施設ではなく文化的拠点としての整備を求める声があるが、これについて検討の余地はあるのか。また、地元住民の理解が十分に得られていない現状について、今後どのように対応するのか。さらに、駐車場の問題についても市長の答弁から不安を感じた。一般質問でも指摘したように、現状の計画では駐車場が離れすぎている。こうした課題は、新たに調査委託をせずとも市が主体的に検討できる課題ではないかと考える。この点について、現時点での見解を伺いたい。

○市長

ご質問は、神楽団体や地元住民に市長提案のプランについて意見を聞く考えがあるか、という点だろうか。

正式に意見を聞くには、神楽団体に対し「ここにこういう施設をつくる」と説明できる段階であるべきだが、現時点では展示内容や収容人数などの詳細が固まっていないため、具体的な説明が難しい。これらの情報を整理するために、令和7年度予算で基本構想を策定し、その過程で中間報告を行い議論することも考えられる。

駐車場の問題については、三つの機能を備えた施設を設けると、十分な駐車スペースが確保できるか懸念がある。複合施設の利用だけであれば大きな混雑は想定しにくいですが、交流広場や神楽公演には多くの人が集まり、駐車場不足が生じる可能性が高い。そのため、近隣の駐車場の活用や、図書館、N T T跡地、さらには民間駐車場の借用も検討する必要がある。現時点ではこのような考え方で対応を進めている。

○佐々木委員

仮称神楽ホールの収支や入込客数の予想など先々の問題のほうが大きいと私は思っている。1年後にある程度分かってくるのかもしれないが、維持管理費も気にしながら今後の検討をしてもらいたい。

また、駅からの神楽ロードに本当に民間が入るのかも大変心配している。さらに、13ページに書かれているように、駅周辺以外の立地適地も検討した上で進めてほしいという指摘も重要だと思うが、見解はあるか。

○市長

収入については、今やっている夜神楽公演の結果がベースになると思うが、コストについては今の段階で見通すのは難しい。だからこそ基本構想を作りたい。

民間の参入については、私はやるべきではないと思っている。行政側の意向がオープンになり、そこで初めて民間の動きに波及していくと思う。

報告書にある「その他適地」がどこをイメージされているのかは分からないが、我々は駅周辺のみでなく、世界こども美術館（以下、美術館）、浜田城資料館隣接地、お魚市場周辺も考えたことがあり、おそらくそういうイメージだろうと思う。様々な観点から三桜酒造跡地が最適だろうと現在思っているが、もっと適した土地の提案があれば検討したい。

○小川議員

この件は市民の間でも賛否が拮抗している。三つの機能が三桜酒造跡地に入れられるか分からないからコンサルに調査を依頼すると言われたが、市長も分からないものをコンサルに委ねてどうするのか。

また、三つの機能を集約した施設にするほうが整備コストを抑えられると言われるが、三つを一緒にするのは無理があるのではという声は多くの市民から聞かれる。議員が指摘しても市長の考えが変わる様子がないのを見ると、市長はこの問題についての市民の声を聞く気が本当にあるのかと。市民の声に寄り添って合意形成に持っていくべきなのに、このままだと分断を招くのではと危機感を覚える。

この1年手順を踏んできたのだから良いではないかというのが市長の主張なのだろうが、そこが市民感覚と大きく乖離していると感じる。同じ目線から議論を作っていく姿勢、市民に寄り添う姿勢を考えてもらいたい。

○市長

市民の理解を得るためにも、不安を払拭できる情報が必要である。あの4千平米の中に三つの機能を集約できるだろうと思っているが、専門家の知見を踏まえた絵を示さないと十分な説明は難しいとも思っている。

背景を言えば、郷土資料館の建替えは必要、石見神楽の保存伝承施設があっても良い、その検証を要望する声はもらっていた。それに向けて専門家の知恵を借りながら可能性をある程度把握しないと説明もできないと考え、提案させてもらっている。

○小川議員

市長はこの施設を通じて外貨を稼ぐと言われるが、物価高騰、人口減少、所得がなかなか上がらない中、誘客も難しい状況だと思う。施設は建てたが期待するほどの効果は得にくいのではないか。見解を伺う。

○市長

まず前提として浜田の歴史を後世につなげる。郷土資料館は老朽化しているため整備しなければならない。次に石見神楽の保存伝承のために、情報発信拠点も検討すべきである。三桜酒造跡地は市内外から人が集まるようなことに活用すべきだとの提言をいただいている。この三つは必要なのでどこかに用意しなければいけない。同時に、人の流れを作り、当市も刺激して地域経済を盛り上げたい。環境は徐々に厳しくなってくるが、何もしなければ外貨は入ってこない。整備するなら外貨が入る仕組みも併せて考えるべきという前提をもとに提案している。

○小川議員

それは市長の考えだろうが、今はなかなか難しい状況だろう。

9ページに、旧岩多屋跡地について、いずれも明確な利用が定まってないとある。民間の土地家はあるが例えば市長は、あそこがどのように再開発されたら良いと思われているか。

○市長

民間の土地なので私の思いを言うのは難しい。ただ、三桜酒造跡地を核として周辺エリア活性化につながれば、当然地域活性化に資するものを民間投資でやってもらえればいい。

○村武議員

この報告書を基に市の意向を入れて、専門家の意見を入れながらたたき台を作っていくと市長も考えているのだろう。ここに市民意見を聞いて反映されるのか。

○市長

ある程度説明できる段階になったら、市民に説明する必要があると思う。最終決定ではなく、今より具体的なことを説明する場が必要である。

今の段階だと、質問されても答えられない。ある程度説明できるように具体案を

示した上で説明会やパブリックコメントは必要なプロセスだと思う。

○村武議員

市民の声を聞きながらこれを作り上げていく手法もあるのではないかと。イケ・サンパークの事例があるが、ほかの事例に訪問して携わった方の話を聞いたことがある。市民とワークショップを重ねながら、どういった公園にしたいのか何度も議論を重ねながら構想を作り上げてきたと伺った。市民に理解されるためには、一方的にただ説明するだけではなく、そこに市民意見を入れることも大切では。

○市長

大変重要な指摘だと思う。基本構想の中に、市民の声を聞くことを入れるよう検討したい。この予算案で足りるか心配だが、必要なことだと思う。

○副市長

基本的にはコンサルの中にそういうプロセスも含めて提案することになっている。併せて、先般商工会議所からも一緒になってプロジェクトを進めたいと言われたので、手伝っていただけると思う。特に商工団体や商店街の声は受けようと思っているし、自治体の声なども聞きたい。

○村武議員

西田委員の一般質問で、石央文化ホールについて聞かれていた。この報告書には、浜田市まちなか交流プラザやまちづくりセンターの利用状況については詳しく載っているが、石央文化ホールについては情報が少ないように感じるが。

○商工労働課副参事

大きなホールは意味合いがまた違うので、主ににぎわい創出のイベントなどに焦点を当てて調べた。したがってまちづくりセンターなどが具体的に上がっている。

○村武議員

多目的ホールという言葉が良く出ているが、石央文化ホールもある意味多目的ホールだと考えると、近くに多目的ホールができてしまうと石央文化ホールの利用が減ることも考えられる。石央文化ホールに例えばヒアリングや相談などはされたのか。

○商工労働課副参事

具体的にこうするからと、石央文化ホールにヒアリングはしていない。これから進めていく上で、すみ分けは当然必要であるし無駄な投資をするわけにいかない。これからの話になると思う。

○村武議員

これだけ話が大きく世間に出ていることを考えると、石央文化ホールの方々の思いなどもあると思う。そこはすごく大切にしてもらいたい。石央文化ホールで石見神楽の大会や催し物は多い。それだけ石央文化ホールの方々も石見神楽を大切に考えていると思う。

○商工労働課副参事

ご意見良く分かった。そのようにする。

○西田議員

市民への説明材料に不安があるので、そのためにコンサルを交えていろいろ検討していくための予算だと言われる。例えばA案が三桜酒造跡地の中でできるかどうか、文化伝承施設や郷土資料館、多目的ホール、交流広場。それを含めてコンサルに委託すれば、おそらくそれが全部適うものを最終的に提案されると思う。提案されたらそれに沿わねばならないような道筋ができていくのではと危惧している。市から言われるままの無機質なものができるのでは。ストーリー性、誰もがあそこに行けば元気になるような空間を、やるならとことん知恵を出してほしい。

○市長

あそこに本当にそういった施設ができるのか。平屋か2階建てか、駐車場が何台取れるか、現時点では説明できる材料がない。基本構想をコンサルに示してもらい、できそうだとすれば各論になって、外壁、屋根などの話は次のステップだと思う。まずはあそこでこういったものができるかどうか、議論のためのたたき台の整理をさせてほしい。皆の意見を過程で聞くことは考えていきたい。

○西田議員

コンサルに頼らず、できるかできないかさえ浜田市で考えられないのか。なぜ浜田の人は、人に委託したり頼ったりしないとイメージも浮かばないのか。そこになぜそれだけの金を使わなくてはいけないのか。いつも疑問に思う。残念でならない。

○副市長

個人によって抱くイメージが違う。ただ、地域の人に親しんでいただけるものを作らなければいけない。これは同じ思いだと思う。三桜酒造跡地はきちんと引き継げるよう市長もやっていきたいと申している。

○永見議員

基本構想であるなら市内である程度練られるのでは。市民ヒアリングなども含めて練れば、あまり後戻りがない状況になるのでは。市である程度構想を固めてからコンサルに出して基本設計するのが本当の流れではないか。

○副市長

三桜酒造跡地の建物のことだけをコンサルに出したわけではなく、それを核とした浜田駅周辺の活性化を描く構想を作ることが今回の目的である。その中には当然三桜酒造跡地のことも入っているが、それだけをやるなら別途必要だと思う。一体的に考えなければならないので、今回は周辺エリア、民間の方にどのように関わっていただくかも含めた構想を作るために提案している。

○永見議員

三桜酒造跡地の構想はある程度できるのでは。周りの市民の関わりを言うのなら、やはり市民ヒアリングをすれば考えがある程度理解できると思う。そこからまずはスタートするべきではないか。

○副市長

意見を聞く作業も構想づくりの中でコンサルにお願いする。そのプロセスは議員や市民にお知らせしながら進める流れをつくらなければいけないことは認識している。

○川神議員

現在の浜田の経済状況などを鑑みると、神楽伝承施設やそれに付随したものは、検討して市民の後押しを得ながら設置していくのが望ましい、そういう意味での推進派である。ただ、どうしても今回の進め方について、温度差はありながらも皆一様に不安を感じている。

先般神楽関係者と話したが、神楽伝承施設に対しては積年の夢なので大きな期待を寄せていたが、場所に関してはそこまで大きな議論がなされていない。巷や議会で様々な意見が出ているようだが、自分たちからすると、市民から後押しを得ながら活動していきたい、無理やり進めたいわけではないと。市民や、まちあつての活動なので慎重に進めてもらいたい。

駅前周辺の基本構想はコンサルに頼らずともイメージができるのでは。地元業者や専門家の知見を得ることはできないのか。

○副市長

ある程度のことは尋ねられると思うが、事業者は「自分が言ったと広まったら困る」と言われる方もいるので、きちんとした声を聞くためにはきちんとした手続きを踏まなければいけない。今回の提案はコンサルに限定するつもりはない。

○川神議員

三桜酒造跡地を核とした駅前構想として予算が上がっている。そうではない場所の意見が出たときは、市長も再度考えると言われた。そうなる今回の予算は市民にどう受け取られるのだろうか。石見神楽伝承施設を三桜酒造跡地に入れた場合以外の駅前構想を予算内で試算いただくという手法はあり得ないか。

○副市長

現段階でその考えはないが、もしそうなれば途中で議論しなければいけない。今はこれまで示したことをベースに進めていきたい。どうしてもということであれば、絶対に譲らないということではない。ただ、この予算内でそこまでできるかは明言できない。

○川神議員

根本的にこの施設は文化伝承が基本であり、そのために検討委員会もできた。神楽関係者からの協力は得られると思うが、にぎわいづくりがメインになると神楽関係者の思惑とずれてくる。大事なのは市民を挙げて応援していく態勢づくり。市民への十分な説明は肝に銘じていただきたい。市民から応援をしてもらえる仕組みづくりが大事思う。阿波踊りやねぶた祭など、地域をあげて文化を応援していただく、オール市民で応援する文化財が際立っている。石見神楽を育てるにはそのような素地を市長を中心に伝えていき、議会とも距離を縮めていくように話していくことが大事である。

○大谷議員

我々が不安に思っているのは、絵が見えないせいでどういうものができるか分からない点だと思う。郷土資料館はもう60年間もある意味放置されている。これを何とかすることについては歓迎したい。なおかつ、神楽関係者は神楽の資料なり衣裳なり

を保管する場所が要るとも言われていた。それについてはガラス張りの収蔵庫を作れば、まさに保管と見学が同時にできる。知恵を絞っていけばできそうだとイメージが湧いた。市民が見れば大きな予算なので反論も出るだろうが、無駄なお金にならないようにしっかり検証していく意味でコンサルの話なりデータなりを積み上げて、どういうものができるか論議していくと言われている。執行部側も具体的な絵が描けるような資料を今後提示してもらったら良いと思う。互いのコミュニケーションが大事である。

○市長

イメージが湧くようなものについては考えさせていただく。どのようなものが良いかも含めて検討したい。

○川上委員

あの場所は商用地なので、建ぺい率は80%、容積率は400である。つまり4千平米なら3,200平米しか作れない。残り800平米で、50台しか駐車できない。執行部は理解されているのか。

○副市長

建ぺい率については浜田市にも分かる。

○副議長

進行を交代する。

○議長

令和6年2月26日に三桜酒造跡地活用等についての対応方針を施政方針にて述べられ、その日の全員協議会で市長は、この件に関しては凍結だと答弁された。副市長に至っては白紙という言葉まで使って答弁された。議事録を見直したが、ここにおられる議員が皆質疑されていた。その中で市長は、石見神楽伝承館と浜田郷土資料館の併設や場所については、今後議会の意見を伺いながら検討したいと言われたが、一般質問で佐々木議員から指摘があったように、令和7年2月26日の施政方針で初めて我々もこの方針を知った。その間我々は一切協議しておらず、6月の補正予算で駅前構想をコンサルに聞いて、三桜酒造跡地については考えるというところで議会も認めた。それが上がってきて初めて、凍結や白紙があったところを議会として議論できるのだろう。まさに調査結果を基に我々が議論するのだろうと思っていたが、それを飛び越えて予算提案などが出されたので、こういう状況になっているように思う。

コンサルの報告は12月末と聞いていたのに、1月末に遅れた理由をまず聞きたい。

○商工労働課副参事

6月定例会議に説明したのは、7月に契約して12月末にという予定だった。昔からの計画もあるのでそれも踏まえてということで、定例会議が終わった後に業者とも前交渉した上で、結局契約が8月になったため、納期も1か月ずれた。

○議長

この調査を執行部が見たのはいつか。

○商工労働課副参事

届いたのは1月31日である。

○議長

これを基に良いところ取りされたのか。1月31日に結果を得て、我々が骨子を聞いたのは2月7日。1週間しかない。執行部はこれをどのように協議されたのか。どれくらいの協議をされて、何時間かけて、議論が一体どのように行われたのか。

○商工労働課副参事

それまでに方針的なものは何度か口頭で話したことがある。ただ、物を見せてこうだからという話をしたのはかなり後、答弁書の協議の頃になる。

○議長

この前の委員会では、これを参考に良いところ取りで構想案を出したと言われたので、その協議をされているはずである。その協議をどれだけ深く、誰が集まってやったのかを聞いている。

○副市長

報告書そのものをもらったのは1月31日である。ただ、1月14日に私も気になったので調べてもらい、口頭でコンサルの方向性を聞いたので、それをもって協議した。

○議長

どなたが参加されて、どういう場面でやったのか。3、4回はされていると思うが。

○副市長

14日には市長も私も教育長もいたのではないかと思う。その後もう1回くらいは市長と、シートを作る作業があったため協議をしている。ただ、そのときに報告書は手元がないので、聞いた内容ベースで作った。今メモに残っているのはこの2回、ある程度人数が集まった協議をしている。

○議長

2回ということによろしいか。

○教育長

まず教育委員会が神楽伝承内容専門検討委員会を進めていたので、その途中過程は常に皆に相談し、情報提供していた。その上で、教育委員会としては文化伝承が一番で、どこが良いかの議論は教育委員会内でもやってきた。当初は美術館だとある程度確認していた。ただ、駅前の議論が進む中で、神楽には文化と観光・地域振興の側面があり、そちらも考えなければいけないということは皆理解していたので、今回の方向感としてこのような話が出てきたときに、文化や歴史伝承ができるのであれば、そういう議論が始まることについては一定の理解をした。

○議長

2回されたと理解した。もう1点、石央文化ホールの質疑があった。コンサルはもちろんヒアリングされてないと思うが、施政方針でも多目的ホール、神楽ホールと言われているし、構想とはいえ名前が出てきて予算化もされている。1月31日から7日までに石央文化ホールと何度協議したか。

○商工労働課副参事

具体的にはしていない。

○副議長

進行を交代する。

○議長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

(2) その他

○議長

執行部から、ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

ここで執行部は退席されるが、議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

では、執行部は退席されて構わない。

(執行部退席)

2 その他

(1) 自由討議について

○議長

議員間で自由討議を行いたい案件が何かあるか。

○三浦議員

この件について自由討議をぜひ行いたい。

○議長

内容について詳しくお願いします。

○三浦議員

今回の調査報告も含めてだが、施政方針で示されている市長の見解に対して。先ほども多くの議員が疑問を呈した形になっている。それぞれの考え方について、議員間で討議できたらうれしい。

○議長

先ほどの調査事項について皆の意見を聞きたいとのことで、自由討議したいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

長くなったので一旦休憩したい。

[17 時 57 分 休憩]

[18 時 05 分 再開]

○議長

全員協議会を再開する。先ほど三浦議員から、今回の基本構想について自由討議の希望があった。まず三浦議員から願います。

○三浦議員

気になっているのは、提言書やこういう調査結果に書かれている意見をどれくらい反映した方向性を示したもののなのか。総合的に判断しているとはいえず少し疑問が残っている。予算にも関わるが、教育委員会からは今後神楽の拠点施設を建てるならどういうものが良いかという議論をしていく予算が上がっているが、それを踏まえないと具体的な議論ができないのではないかとこの順番への疑問。にぎわい創出のための中心市街地の整備計画をどうしていくのかという順番が、私の考え方とは大きく異なる。それから、質疑する中で他議員のいろいろな疑問点を伺いながら、この方向性を示す進め方には少し疑問を持っている。これに対して多くの議員が疑問を投げ掛けられた状態だったが、それに同意する意見、あるいは事業に賛成の意見も併せて伺いたい。

○岡本議員

まず金額と規模が知りたい。具体的なプランがないと説明し切れないと思う。これを通したら突っ走ってしまうのではという不安があると言われたが、内容が示されないと市民も我々も分からない。

○三浦議員

突っ走ってしまう不安があると言われたが、突っ走らないような約束がどこにあるのか。それが約束されないと不安は解消されない。不安を残したままでは賛成しにくい。たたき台が無いと議論できないというのは理解するが、神楽拠点をどう作るかは、神楽関係者が集まる検討委員会で8回議論した提言書の中に「拠点は必要だ、ただしその議論をする際は別の検討委員会をつくって、どういう施設が必要なのか議論すべきだ」と書かれている。それなしで、いきなりあの場所に建てるという計画が同時に進むのは納得できない。その話があって、やはり建物が必要だ、この広さが必要だということが出てきたあかつきに、場所や建物規模を決めるのが正しい順番ではないか。その議論なく、市長は自分の思いを語られている。

○岡本議員

若干その姿勢は見える。どういう絵が描かれているのかを見たい。半年くらい前に私は、あくまでも城山の下に資料館を建てるべきだと言ったが、他の議員の反対があってその案は立ち消えた。あのときに、代案となる絵が欲しかった。

そもそも、中央図書館の隣になぜ資料館を建てなかったのかを論議してきた。当時は予算がないと言われた。お金に余裕が出てきて、宇津元市長時代から構想があった資料館に神楽伝承施設を複合的に考えるのが自分の使命だと考え、久保田市長は三桜酒造跡地を選んだのだろう。

○議長

請願を出されて議会で否決はされたが、立ち消えたわけではない。

○三浦議員

請願に関しては、場所ありきの議論にならないように、物の必要性がまだ分からない中であの請願の文言を読み解き、請願者の思いは酌むが、場所ありきの議論ができる段階ではない、しかし意向としては受け取るという思いで、私はあの請願に反対した。

今回も場所ありきの議論にならないよう、なぜそこなのかという論拠がないと賛成できない。請願に反対した理由と、今回いろいろ質疑している理由は一緒である。そこは誤解なきようお願いする。

○岡本議員

市長が三桜酒造跡地と出されたことに対して、ほかの場所も考えられるのではないかと提案している。そこで絵が描けるかは分からない。絵を描かないと議論が深まらない。絵を描くのは大事である。同僚議員は建築士の知見があればできるのではないかと言われたが、私の経験からもそれほど簡単にできるものではない。私は市長案を容認する反面、不安要素もある。どこで担保するかは今後の市長の対応だと思っている。

○布施議員

予算決算委員会で附帯決議が出たり修正が出たりする可能性は否めないと感じた。1年前に凍結され、検討委員会に託された。保存伝承については皆必要性を感じているが、場所は限定しないというのが検討委員会の答えだった。にもかかわらず、市長の思いが強い方針が出された。

今日の説明を聞いても、いま一つ段取りができてない気がする。駅前のにぎわい創出と三桜酒造跡地、800mの範囲でやるには無理がある。私も推進派の立場ではあるが。専門的な分析はするべきだが、要点が違うことも結構ある。

山水海に聞きたい。以前、会派の要望として市長に向けて、駅前周辺エリアについて出されたと思う。市の駅前にぎわい創出と会派の案とは、どのような合致や乖離があるのか。

○三浦議員

中心市街地活性化について、駅周辺エリアの整備構想を考えるときには、既存施設や遊休施設をうまく使ってほしい。さらに、公共事業だけでは全体のにぎわいは創出できないので、民間投資を呼び込めるような制度をぜひ考えてもらいたい。そういった意味合いから、駅前周辺が活性化されることを期待するという議論である。したがって前提は一緒だとは思う。ちなみに市の回答も紹介すると「駅周辺エリアについては、望ましい整備の方向性を示せるように、土地利用や施設の現状把握、他地域での事例分析等を行っている。今後これらの調査結果等を踏まえ、市民等が主体的に利用でき、にぎわいの場となるような方針を検討していく」との回答だった。執行部の見解はこれで良いと思う。

私が議員間討議で皆にどう感じておられるのか投げ掛けたのは、専門家検討委員会を立ち上げて提言書をもたらした、調査事業を委託して結果が出てきた、それを踏ま

えてなぜそれに至ったのかという説明がないままここでこのようにやると言われるので、岡本議員も不安だと言われたように同じ不安を抱えているのである。不安を持たないように採決に臨ませてほしいのでプロセスを伺っているのに、それが示されない。

○布施議員

まさしくそこである。議員もそうだが、そういったところが示されないから市民はさらに不安である。なぜここに至ったかがまだ全然見えない。そこを尽くせば理解が進むのではないかと思う。コンサルへの予算措置が出ているが、根本の考え方、順番を市民にしっかり説明してほしい。議員も賛成反対いろいろ思いはあろうが、最終的には市の方向性を合議制で決めていきたい。今この場で意見を聞きたい。

○議長

明確な賛成反対は予算審査の場があるので、今は今日の話聞いての自分の意見を言っていたきたい。

○岡本議員

私から議員に問い掛けたいのは、郷土資料館は要るのか、要らないのか。神楽伝承拠点施設は要るのか、要らないのか。要らないという意味で反対しているなら、最初から話にならない。私は要ると思っている。私はUターンした身だが、都会から見て浜田には自慢できるものがない。だから必要だと思っている。皆はどう思われるか。

○三浦議員

私は、郷土資料館の建替えは早急に必要だと思っている。神楽の拠点と言われていたものについては、今後議論することになっている。そのために予算計上されているが、具体的な中身が上がってこない段階で議論するのは時期尚早だと思う。ただ、浜田の大事な歴史資料などをしっかり保存していくのは行政の役割である。老朽化した建物の中できちんと保存展示できるのかは疑問を持っているので、適切な場所に適切なサイズでやるべきだと思う。

にぎわい創出については、郷土資料館等のにぎわい創出できるとはあまり思っていない。それはコンサルの調査結果にも書いてあるとおりで。ただ、中心市街地のにぎわいを創出しようというのは、三桜酒造跡地検討委員会も含めて参加者は皆言っているし、商店街の方々もそれを多く望んでおられると思う。駅はゲートウェイなので、それを中心とした整備計画は必要だと思う。その中のにぎわい創出は欠かせない要素である。

○川上議員

私も基本的には三浦議員と同じである。確かに郷土資料館については早くすべきだと思う。三桜酒造跡地を使うことに関しては置いておいて、その前に駅前付近または銀天街をどうするかを検討すべきである。

○芦谷議員

市民から、市長・議会は何をしているのかと言われる。市政は二元代表制でやっているのだから、どこかで合意点を見つけなければ。

先般、全日空関連会社の会長が、最終便で萩・石見空港へ着いてジャンボタクシ

一で浜田へ来たが何も無い。ただ、良いのはアクアスと温泉だと言われた。

交流人口を集めないといけないのに、そういったものがない。やはりそういうものを作って、市民に啓発して、市への愛着やほこりを持ってもらうことも、人口定着につながると思う。城下町があって歴史のある市で、本格的なそういったものがないことを、もう少し振り返らねばいけない。議会の責任である。

もう一つ。日本遺産が県内に5か所あって、石見神楽と北前船が浜田にある。それを契機に観光客も含めて市民の期待に応えるように、間髪入れず整備する。これは行政に携わる者の責任である。あまりにも入り口で議論をしている。とにかく市長の言うように走りながらやらないと議論だけで終わってしまう。今までの傾向だと、だめにする議論だけが先行していて、本当に市民の期待に応えているのか自問自答している。

○牛尾議員

三浦議員の意見に賛成する部分がある。コンサルに370万円も掛けた結果を尊重すべきだと思う。美術館に郷土資料館を合築する案に私は賛成である。まだその案は残っているような言い方を教育長はされるが、市長は三桜酒造跡地にと言われる。最初に土地開発公社に三桜酒造跡地取得の依頼が来たときは、J T跡地と同じでアンダーコントロールのためにとりあえず市が押さえるというのが入り口論だった。しかしその辺の話も今や飛び、すでに三桜酒造跡地へ建てるといった話になっている。三つの機能をそこへ入れることしか考えられないのだろうか。郷土資料館の話は随分引っ張っているから、現行の建物が大変になっている。今から6、7年掛かるとしたら、美術館との合築が正しいのではないか。それ以降のことはそれ以降のこととして考えれば良い。

郷土資料館と神楽伝承館の合築もできなくはない。しかしそこににぎわいが出せるかというのが一番のハードルであり、だからコンサルがきちんと書いている。あそこならにぎわい創出できると確認できないと建物は建てられない。それでなくとも、あれだけ元気だった銀天街が今や物販はほぼなく飲食店だけである。目の前の優先順位で片づけるのであれば、郷土資料館と美術館の合築をして、その後ゆっくり三桜酒造跡地のことを考えれば良い。これが私の意見である。

○沖田議員

そもそも令和2年に立てられた計画が、生きているか死んでいるかも分からないまま今回の計画が出てきた。その整理をきちんとしてくれというのが私の入り口論である。そこがすっきりもしないのに、何が三桜酒造跡地だと。きちんと委員会を開いて、美術館との併設案はどうするのかをきちんと聞かせてもらわないとスタートラインにも立てない。

○大谷議員

牛尾議員の言う合築の件だが、あそこは無理だと私は思っている。なぜかというところ、私が一番大事にしたいのは収蔵庫である。あの計画では、今の建物の大きさの収蔵庫しか用意してない。ほかにも浜田ゆかりの資料はたくさんあるのに受け入れられ

ない状況であることを考えると、美術館横というのは案として大変良いとは思いますが、スペース的に足りない。ある程度広さが要するというのであれば、歴史文化を大事にするという意味で、あそこが適地の一つだと思う。なぜならあれだけの広さがある土地が今のところないので検討に値する。

神楽団体は、資料や文化的なことも残してほしいと言っておられるので、収蔵のことも考えれば複合もありだと思っている。高校生ら若い世代は、神楽の英訳などもやっている。そういう施設が早目にできることが望ましい。

浜田のブランドをどうつくるかという意味合いも含めながら考えていく必要がある。今あるスペースにどういう絵が描けるかを見た上で論議することはあっても良いと思う。個人的には、神楽ホールの200ないし300人というのは多いと思う。見せる場面は当然あって良いが、その計画規模は検討材料にしたい。少なくとも絵は見たい。

○議長

この際、暫時休憩する。

[18 時 38 分 休憩]

[18 時 39 分 再開]

○議長

全員協議会を再開する。今回の全員協議会はこの程度にとどめ、明日の午後から再開したい。よろしく願います。

以上で全員協議会を終わる。

[18 時 40 分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 笹田 卓